

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：布教原理を通して教化伝道的重要性を認識する。 テーマ：布教原理の基本を学ぶ。
布教教Ⅰ十布教Ⅱ (別)	
授業の概要	本講義は布教の基本を学ぶ科目である。布教の基礎知識を身につけ真言宗教師(僧侶)としての意識向上を図る。
授業計画	【前期】 1. 講義の概要について解説する 2. 布教伝道の方法 3. 布教の目的 4. 布教の任務 5. 仏教の布教伝道 6. 真言宗の布教理念 7. 信仰心の喚起 8. 礼拝の実践 9. 安心の獲得 10. 教化活動の実例 11. 布教の対象 12. 布教の種類 13. 説法の十事 14. 布教資料について 15. 真言宗における海外布教の歴史
学期	【後期】 1. 布教原稿の書き方 2. 教材収集の方法 3. 教材のあつかい方 4. 布教実修(発表) 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 高野山開創の意義 14. 布教作法とその心得 15. 講義の総括
通年	
単位数	1 2 1
担当者	テキスト 寺河俊海著『現代布教の理論と実際』高野山出版社 参考書・参考資料等 適時プリントにて配布する
橋本真人	学生に対する評価 レポート(文書布教)50% 授業参加(態度重要視)50%で評価する その他 前・後期を通して受講することが望ましい

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言宗の常用經典の読誦法(お経の読み方)の習得。 祀る本尊に応じて、さまざまな真言や陀羅尼が読誦されます。 常用の諸真言や陀羅尼を読誦出来るよう学びます。 真言宗で用いる經典に関する基礎知識と『般若心経秘鑑』など祖師の典籍も学びます。 テーマ：常用經典の読誦実習
常用經典Ⅰ十常用經典Ⅱ (別)	
授業の概要	『理趣経』、『観音経』、『梵網経』を中心に、寺院日常の勤行・法要などに用いる諸經典の読誦法を習得し、順次『般若心経』や『立義分』など短い偈文などを略誦できるように努めます。 また、僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『金胎礼懺』『三陀羅尼』読誦に努めます。 回忌法要やお盆の棚経などの日常の檀務・年忌法要についても、その意義と実践を学びます。
授業計画	【前期】 『真言宗常用諸経要聚』に収録される經典や偈文の読誦法を順次教授し、稽古します。また、読誦する經典や偈文の内容(意味)を簡単に概説します。 【後期】 ①『理趣経』を中心に、前期に学んだ諸經典の読誦の稽古を、引き続き行います。 ②僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『金胎礼懺』『三陀羅尼』『諸真言』読誦に努めます。
学期	『開経偈』、『懺悔文』、『回向文』、『礼文』 『理趣経』 『梵網経』 『観音経』 『般若心経』、『舍利礼』、『立義分』 『九条錫杖』 『三陀羅尼』など
通年	
単位数	1 2 1
担当者	※「お経は耳で学ぶもの」ともいわれます。法要として多人数での読誦を知るため、時間的余裕が取れば、高野山内の勤行への参加や法会の見学など、講義の時間以外の学外授業も行う予定です。 テキスト 中川善教編『真言宗常用諸経要聚』その他、資料を配布する。 参考書・参考資料等 必要に応じて講義の中で指示します。
宮田永明	学生に対する評価 出席と講義に臨む姿勢50%、実技・筆記試験50% その他 講義には、念珠と輪袈裟を持参して下さい。 また、伽藍の金堂で開壇される「結縁灌頂」に入壇することを原則として義務付けます。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：阿息観の修得 テーマ：阿息観の理論と実習
観法の理論と実習Ⅰ (別)	
授業の概要	阿字観の前行と位置づけられている阿息観について、その理論を解説するとともに実習をおこなう。 テキストにしたがって講義を進める。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 阿息観と悟り 3. 真言密教と釈迦 4. 瞑想の目的と種類 5. 修行の基本 6. 弘法大師空海の宗教体験 7. 阿息観について 8. 阿息観について 9. 阿息観の実習 10. 阿息観の実習 11. 討論 12. 阿息観の実習 13. 阿息観の現代的意義 14. 阿息観の現代的意義 15. まとめ
学期	
前期	
単位数	1
担当者	テキスト 山崎泰廣『阿字観瞑想入門』(春秋社) ※生協取り扱い 参考書・参考資料等 『密教福祉Ⅰ』『密教福祉Ⅱ』(密教福祉研究会編)
佐藤隆彦	学生に対する評価 期末レポート60%、授業20%、討論小テスト20% その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：阿字観の修得 テーマ：阿字観の理論と実習
観法の理論と実習Ⅱ (別)	
授業の概要	阿息観を踏まえて、月輪観と阿字観について、その理論を解説するとともに実習をおこなう。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 阿息観について 3. 阿息観の実習 4. 月輪観について 5. 月輪観について 6. 月輪観実習 7. 『大日経』と阿字 8. 阿字観について 9. 阿字観について 10. 阿字観実習 11. 自由討論 12. 阿字観の口訣 13. 阿字観の口訣 14. 阿字観実習 15. まとめ
学期	
後期	
単位数	1
担当者	テキスト 山崎泰廣『阿字観瞑想入門』(春秋社) ※生協取り扱い 参考書・参考資料等
佐藤隆彦	学生に対する評価 期末レポート60%、授業出席20%、討論小テスト20% その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言密教の阿闍梨となるための伝法灌頂への入壇に必修となる、四度加行の実修を行い、作法の習熟を目指す。 テーマ：中院流四度加行の実習
	加行Ⅰ
	授業の概要 伝法灌頂入壇の前行となる四度の加行を、前期（理趣経・護身法・十八道・金剛界）と後期（胎蔵・護摩）の2期に分けて実修する。 その中で、真言宗僧侶の基礎として朝夕の勤行などを通して法要の実践、また集団での生活を行うことで僧侶としての規範を身につける。
	授業計画 （前期） 理趣経・護身法・十八道・金剛界 （後期） 胎蔵・護摩 大阿様よりの伝授に従って、順次に行法を実修する。 各作法等においては随時説明を加え、真言宗としての基礎となる行法修法の実修を行う。 作法の習熟を目的として、指導を行う。 また朝夕の勤行など、僧侶としての基礎を習得する。
	学期
	集中
	単位数
2	
担当者	
瀧田雲溪	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言密教の阿闍梨となるための伝法灌頂への入壇に必修となる、四度加行の実修を行い、作法の習熟を目指す。 テーマ：中院流四度加行の実習
	加行Ⅱ
	授業の概要 伝法灌頂入壇の前行となる四度の加行を、前期（理趣経・護身法・十八道・金剛界）と後期（胎蔵・護摩）の2期に分けて実修する。 その中で、真言宗僧侶の基礎として朝夕の勤行などを通して法要の実践、また集団での生活を行うことで僧侶としての規範を身につける。
	授業計画 （前期） 理趣経・護身法・十八道・金剛界 （後期） 胎蔵・護摩 大阿様よりの伝授に従って、順次に行法を実修する。 各作法等においては随時説明を加え、真言宗としての基礎となる行法修法の実修を行う。 作法の習熟を目的として、指導を行う。 また朝夕の勤行など、僧侶としての基礎を習得する。
	学期
	集中
	単位数
2	
担当者	
瀧田雲溪	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：如何なる状況にあっても寺院の護持と興隆に寄与し、檀信徒や地域社会の教化伝道に意欲を持って、責務を果たし得る住職としての資質を身につけて頂く。 テーマ：寺院住職が菩薩道を歩むために何が必要か。
	住職学Ⅱ（住職の心構え）
	授業の概要 真言王国の淡路島で最低な貧困の寺院に晋山して、祖師お大師さまに対する絶対の帰依のもと、大師教学、曼荼羅思想を糧に、淡路島最大の寺院に甦がえらせ、地域社会の活性化の核としての寺院に成し得た住職道50年の歩みを、体験を通して語りたい。
	授業計画 1. 「下坐に生きる」を杖言葉とする意義。 2. 「還源を思いとす」（性霊集）に秘められた真意とは。 3. 「真言は不思議なり。観誦すれば無明を除く。一事に千理を含み即身に法如を証す」（般若心経秘鍵）を体感する。 4. 『菩提心論』に基づく「自利即利他」を全ての修行の根源とする。 5. 「地域社会を等閑視して寺院の存在なし」が寺院経営の基本。 6. 「衆生縁」と「感染」こそ教化布教の原点。 7. 「自分」の意味を宇宙大で捉え直して新たな未来を開く。 8. 「護身帰命之法」と「光明真言」の深秘を体得する。 9. 「淡路島七福神霊場」と「甲子大黒天」と「妙音弁才天」をめぐる法縁。 10. 「四恩感謝」と「母念」でいのちの根を深く掘る。 11. 高野山開創の理念と「天長九年の万燈万華会」 12. 密教の源流である南天鉄塔としての「瑠祇塔」と瞑想。 13. 朝の祈りと前行で「仏心開華」をめざす。 14. 「日常五心」で心に灯をとます。 15. 「花ひらく天地いっぱい縁がかり」の人生を歩む。
	学期
	前期
	単位数
2	
担当者	
岩坪眞弘	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：如何なる状況にあっても寺院の護持と興隆に寄与し、檀信徒や地域社会の教化伝道に意欲を持って、責務を果たし得る住職としての資質を身につけて頂く。 テーマ：寺院住職が菩薩道を歩むために何が必要か。
	住職学Ⅱ（住職の心構え）
	授業の概要 真言王国の淡路島で最低な貧困の寺院に晋山して、祖師お大師さまに対する絶対の帰依のもと、大師教学、曼荼羅思想を糧に、淡路島最大の寺院に甦がえらせ、地域社会の活性化の核としての寺院に成し得た住職道50年の歩みを、体験を通して語りたい。
	授業計画 1. 「下坐に生きる」を杖言葉とする意義。 2. 「還源を思いとす」（性霊集）に秘められた真意とは。 3. 「真言は不思議なり。観誦すれば無明を除く。一事に千理を含み即身に法如を証す」（般若心経秘鍵）を体感する。 4. 『菩提心論』に基づく「自利即利他」を全ての修行の根源とする。 5. 「地域社会を等閑視して寺院の存在なし」が寺院経営の基本。 6. 「衆生縁」と「感染」こそ教化布教の原点。 7. 「自分」の意味を宇宙大で捉え直して新たな未来を開く。 8. 「護身帰命之法」と「光明真言」の深秘を体得する。 9. 「淡路島七福神霊場」と「甲子大黒天」と「妙音弁才天」をめぐる法縁。 10. 「四恩感謝」と「母念」でいのちの根を深く掘る。 11. 高野山開創の理念と「天長九年の万燈万華会」 12. 密教の源流である南天鉄塔としての「瑠祇塔」と瞑想。 13. 朝の祈りと前行で「仏心開華」をめざす。 14. 「日常五心」で心に灯をとます。 15. 「花ひらく天地いっぱい縁がかり」の人生を歩む。
	学期
	前期
	単位数
2	
担当者	
岩坪眞弘	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言宗を代表する密教会たる理趣三昧法会を中心に実施し、職業及び導師の心得を身につける。 テーマ：理趣三昧法会実修
法式上級Ⅰ(別)＋法式上級Ⅱ(別)	
学期	前期
単位数	1＋1
担当者	坂田雲溪
授業の概要	
授業計画	【前期】 法会・作法の解説。職業として法会を実修。 【後期】 伝法灌頂に入壇後、理趣経法の伝授を受け、交代で導師を務めて法会を実修。 【その他】 報恩日の法会に職業としての積極的な参加（出仕）を求める。 【その他】 追悼法会、また報恩日の法会に職業としての積極的な参加（出仕）を求める。
テキスト	『真言宗常用経典』、『声明類聚』、中川善教編「理趣経法」
参考書・参考資料等	適宜、指示する。
学生に対する評価	出席を重視し、各作法の習熟度を加味する。
その他	・空衣（尼僧は褌衫でも可）・白袈裟（または如法衣）を着しての受講となる。 ・以下の事項を受講の条件とする。 ①法式AまたはBの単位を取得しておくこと。 ②少なくとも前期加行（十八道・金剛界）を受けた上で受講し、今年度内に伝法灌頂に入壇予定であること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 生涯発達という視点から、人間の心身の発達について理解を深める。
発達心理学	
学期	後期
単位数	2
担当者	坂田真穂
授業の概要	乳幼児期・児童期・青年期など各時期における人間の発達や課題について講義を行う。また、発達上の諸問題がある場合の発達援助的アプローチや心理臨床的援助について説明する。
授業計画	1. オリエンテーションと発達の理論 2. 知覚の発達と描画の発達 3. 運動能力と身体の発達 4. 情緒・感情の発達 5. 自動機の認知発達 6. 青年期以降の認知発達 7. 愛着と養育態度 8. 友人関係の発達 9. 知能の発達 10. 言語能力の発達 11. 動機づけの発達 12. 人格と自我の発達 13. 性役割と性行動の発達 14. 道徳性と向社会的行動の発達 15. 発達の理論と障害
テキスト	川島一夫編「図でよむ心理学 発達」福村出版
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	出席と試験
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 社会で生きる人間のいとなみを個人および集団の両方から学習する。
社会心理学	
学期	前期
単位数	2
担当者	坂田真穂
授業の概要	ワークなどを交えながら、個人・対人関係・集団といった社会心理学における基礎テーマの理解を深める。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 人の特徴 3. 感情 4. 人を傷つける心・助ける心 5. 集団 6. 関係性 7. 社会的自己 8. 社会的影響 9. 態度・説得 10. 文化と心 11. 原因帰属と社会的推論・判断 12. ステレオタイプ・差別 13. 公正・公平 14. その他の社会心理学の論点（1） 15. その他の社会心理学の論点（2）
テキスト	遠藤由美「いちばんはじめに読む心理学の本2 社会心理学」ミネルヴァ書房 吉田俊和・元吉忠寛「体験で学ぶ社会心理学」ナカニシヤ出版
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	出席と定期テスト
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：人格の諸理論、対社会的な場面での人の行動を学び、自己と他者の理解するための考え方、研究方法を身につける。 テーマ：人格（性格）についてのこれまでの研究・知見の理解を深める
人格心理学	
学期	前期
単位数	2
担当者	森崎雅好
授業の概要	日常で何気無く使われる「人格」や「性格」という概念を心理学でどのように扱っているのかを、これまでの研究を概観しながら理解していく。「自分」と「他者」を理解するための様々な考え方を学び、臨床の現場でどのように活かすことができるかを考える。
授業計画	1. ガイダンス：講義の目的・概要の解説を行う 2. 性格の諸理論1 3. 性格の諸理論2 4. 性格の諸理論3 5. 性格の類型論 6. 性格の特性論 7. 性格の発達とライフサイクル 8. 性役割と性格 9. 家族関係と性格、人間関係と性格 10. コミュニケーションと性格 11. 適性について 12. 問題行動と性格 13. 性格の正常と異常 14. 性格の適応的変化：文化と性格 15. まとめ
テキスト	訖摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊共著 『新心理学ライブラリ9 性格心理学への招待[改定版] 自分を知り他者を理解するために』（サイエンス社 2003年）
参考書・参考資料等	適時、紹介する。
学生に対する評価	出席40%・期末試験60%
その他	受講生からの積極的な質問、意見をいただき、「臨床の知」を共に深めていきたいと思っております。

科目名	犯罪心理学
	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：犯罪の視点から、人の行動を明らかにする。犯罪の生物学的、心理的、社会的背景を分析し、人を犯罪という行動に走らせる心的過程を明らかにする。 テーマ：心の光と影、犯罪から見た人の行動
	授業の概要 講義で犯罪一般を概観し、次に実際の精神鑑定事例、非行や少年犯罪の事例などを分析・考察するとともに、その法的処遇や、被害を受けた犯罪被害者についても取り上げる。また、裁判を傍聴・見学することで、その実際に触れる。
	授業計画 (授業方法) まず、日常の出来事から犯罪トピックスを取り上げ、実際の見方を学ぶ。そして、そこで取り上げられた重要な事柄については講義で解説する。講義では臨床心理学だけでなく、精神医学や精神保健学、文化人類学、比較社会学、宗教学などといった近接領域から、犯罪の精神病理や社会病理に接近を試みる。そのために事例報告や心理検査など具体的な事例を提出して理解を深める。 (授業計画) 授業はトピックスと講義で進める。 1. 授業の進め方について 授業目的、計画、方法、評価などについての説明 受講者の関心領域や既修得科目の確認、この授業で学びたいことなどを話し合う 2～4. 事例Ⅰ領域 (非行・少年犯罪より) 須磨A少年事件 重大少年事件の実証的研究より 非行臨床より、その始まりと終焉 5～7. 事例Ⅱ領域 (精神鑑定事例より) 和歌山カレー事件、宮崎勤事件、その他自験例より 病気と責任能力 8～9. 処遇 少年法および刑法による処遇 解法精神障害者の処遇について 10～12 和歌山地方裁判所見学・傍聴 (集中講義の1日) 13～14. 犯罪被害者 DV、いじめ、虐待など 15. まとめ
	学期
単位数	2
担当者	松本行弘
	テキスト テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。 但し、使用した事例のうち、自験例についてのプリントは守秘義務、倫理的配慮の観点から回収する。
	参考書・参考資料等 その都度紹介する。
	学生に対する評価 授業態度 (30%)、試験またはレポート (70%)
	その他 受講には心理学に対する真摯な姿勢と研究心、何よりも好奇心が必要である。できれば心理検査の知識があればより理解し易い。また、履修に当たっては、基本的なルールがあるので、それを遵守すること。

科目名	社会保険総論Ⅰ (別)
	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：社会保険は、社会福祉・医療・年金・雇用・子育て支援という広範囲は領域を取り扱う分野である。その領域の多くの分野は、国民の生活と直結している。利用者の生活支援を考えると総合的に生活関連の分野を学習することが重要である。 テーマ：社会保険の歴史と現状
	授業の概要 わが国では、人口の高齢化がますます進んでいる。少子化も歯止めがかからない。社会保険は高齢化社会で重要な位置をしめるにも関わらず国民的理解が必ずしもあるとはいえない。ここでは社会保険の基本的な事項について理解することを目的とした。
	授業計画 1. 社会保険の概念と範囲 2. ベバリッジの社会保険計画 3. 社会保険の歴史 4. 社会保険の機能 5. 社会保険と労働力 6. 社会保険の方法 7. 社会保険の財政 8. 年金制度の遠隔 9. 年金制度の現状と課題 10. 医療保障制度の沿革 11. 医療保障制度の現状と課題 12. 介護保険制度の創設 13. 介護保険制度の意義 14. 介護保険制度の内容 15. 介護保険制度の課題
	学期
単位数	2
担当者	山口幸照
	テキスト 社会福祉士養成講座『社会保険論』中央法規出版
	参考書・参考資料等 『社会福祉士のための基礎知識』Ⅰ～Ⅲ 中央法規出版
	学生に対する評価 出席率・レポート・筆記試験を総合して評価する。
	その他

科目名	社会保険総論Ⅱ (別)
	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：社会保険の目的を実現するための方法としての種類について学習する。費用負担について国民的理解をどのようにして得るのかを理解する。 テーマ：社会保険の方法と費用負担
	授業の概要 社会保険を実現するためには具体的な社会政策が必要である。そのためには社会保険、社会サービスの利用者の基準を綿密に決定していくことが重要である。すべての国民に平等にサービスがいきわたることが求められている。そのための要件を学習する。
	授業計画 1. 労働保険制度の沿革 2. 雇用保険制度の沿革、現状 3. 労災保険制度の現状と課題 4. 生活保障と民間保険 5. 生活リスクと民間保険の役割 6. 社会保険の管理運営 7. 権利救済制度 8. 社会保険費の構造と経済社会の変動 9. 社会保険改革と将来ビジョン 10. 社会保険費の国民負担 11. 諸外国の社会保険・フランス 12. 諸外国の社会保険・ドイツ 13. 諸外国の社会保険・スウェーデン 14. 諸外国の社会保険・イギリス 15. 諸外国の社会保険・アメリカ
	学期
単位数	2
担当者	山口幸照
	テキスト 社会福祉士養成講座『社会保険論』中央法規出版
	参考書・参考資料等 『社会福祉士のための基礎知識』Ⅰ～Ⅲ 中央法規出版
	学生に対する評価 出席率・レポート・筆記試験を総合して評価する。
	その他

科目名	教職入門 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：教員の職務内容について学生が十分理解し、安易な職務選択をすることがないことを到達目標とする。 テーマ：教員の職務と使命
	授業の概要 本講義は、教員の職務について解説し、教職への導入の役割を果たす科目である。 表面化しない教員の職務の現状について、現場の事例を多く取り入れ解説する。
	授業計画 1. 講義目的・概要の解説を行う。 2. 教職の意義と教員の役割について解説する。 3. 教員養成・教職課程の変遷について解説する。 4. 教員の種類と職階及び教員の役割と社会的使命について考察し解説する。 5. 教員の職務と学習指導要領の関係について説明し考察する。 6. 教員の職務と校務分掌の関係について解説する。 7. 生徒指導と教員の職務について、事例を中心に解説する。小試験。 8. 進路指導・教育相談と教員について、事例を中心に解説する。 9. 学級経営と教員について解説し、論じる。 10. 教員の研修について、職務研修を中心に現状を解説し考察する。 11. 教員の服務と身分保障について説明する。 12. 服務の基本基準について説明する。 13. 職務上の服務と身分上の服務について説明する。 14. 教員採用の現状と進路選択について考察する。 15. 総括講義、教員の仕事から見えること。卒業生の体験談を聞いて。
	テキスト 伊藤一雄著『新・教職への道標』サンライズ出版 2008.10 発行
	参考書・参考資料等 教職問題研究会著『教師論』（改訂版）2007.4 発行
学期 前期	学期 前期
単位数 2	単位数 2
担当者 伊藤一雄	担当者 山脇雅夫
学生に対する評価 定期試験60%、小試験20%、授業参加20%で評価する。	学生に対する評価 小テスト(30%)、定期試験(70%) + 授業への参加を加味する。
その他	その他

科目名	教育原理 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：将来教員を志望する学生を対象に、教育の機能と社会について理解することを目標とする。 テーマ：教育の理念並びに教育の関する歴史及び思想	
	授業の概要 教育という営みは人間形成という個人的な面と、文化を伝達し社会に役立てるといふ社会的な面の二面性がある。本講義は教育の目的や機能について解説し、教育とはどのような営みなのかを考察する。また、現代の日本社会の学校が抱えている教育の病理について、構造的な側面から解説する。	
	授業計画 1. 人間形成と教育及び子どもの発達と教育 第1回：教育の目的と国家 第2回：子どもの発達と教育 第3回：子どもの生活と教育 2. 近代の教育思想とわが国の教育の変遷について概説する。 第4回：ヨーロッパにおける教育思想の変遷を概説する。 第5回：アジアにおける教育思想の変遷を概説する。 第6回：わが国の教育思想の変遷を概説する。 第7回：第1回～第6回の講義内容についてのまとめ。小テストを行う。 3. 学校教育 第8回：義務教育について解説する。 第9回：後期中等教育について解説する。 第10回：高校の多様化と教育課程について解説する。 第11回：高校教育から義務教育と大学教育を考える。 第12回：障害者教育について解説する。 4. 教育と社会 第13回：国際化と教育との関わりについて論じる。 第14回：学校教育の大衆化について論じる。 第15回：第8回～14回の講義内容についてのまとめ、小テストを行う。	
	テキスト 田嶋一著『やさしい教育原理』有斐閣	テキスト 伊藤一雄著『新・教職への道標』／サンライズ出版
	参考書・参考資料等 伊藤一雄著『新・教職への道標』／サンライズ出版	参考書・参考資料等 伊藤一雄著『新・教職への道標』／サンライズ出版
学期 前期	学期 前期	
単位数 2	単位数 2	
担当者 山脇雅夫	担当者 山脇雅夫	
学生に対する評価 小テスト(30%)、定期試験(70%) + 授業への参加を加味する。	学生に対する評価 小テスト(30%)、定期試験(70%) + 授業への参加を加味する。	
その他	その他	

科目名	教育心理学 授業の到達目標及びテーマ ・乳幼児期から青年期にかけての人間の心身の発達について科学的に理解できるように、人間の発達及び学習の過程についての基本的な知見と発達に関する諸理論について学ぶ。 ・障害を持つ子どもの発達と学習の過程について理解する。	
	授業の概要 人間の発達について具体的に理解できるように、子どもの発達及び学習の過程と、各発達段階の発達の特徴について論じる。また、教育心理学の各領域を概観し、教育現場に必要な心理学上の基礎理論を解説する。	
	授業計画 【集中講義日程】 8月17日(水)～8月20日(土) 【講義の順序】 1. 教育心理学とは？ 2. 発達の原理と発達の規程因 3. 発達の諸理論と発達課題 4. 学習理論① 5. 学習理論② 6. 記憶のメカニズム 7. 動機づけ 8. 学習指導の理論 9. 教育評価 10. 知能理論と知能の測定 11. パーソナリティの理解 12. 学級の心理学 13. 子どもの不適応と心理療法 14. 障害をもった子どもの発達 15. まとめと確認	
	テキスト 特になし	テキスト 特になし
	参考書・参考資料等 プリントを配布	参考書・参考資料等 プリントを配布
学期 集中	学期 集中	
単位数 2	単位数 2	
担当者 末田啓二	担当者 藤吉圭二	
学生に対する評価 出席と時折の小課題30%、定期試験70%	学生に対する評価 出席と時折の小課題30%、定期試験70%	
その他	その他	

科目名	教育社会学 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：教育社会学は、教育という営みを社会学的視点から考察し論究する学問である。そのため本講義では、現代の日本社会の教育課題にどう接近できるか、社会的視点から科目としての到達点を診断する。 テーマ：日本社会の構造社会と学校教育	
	授業の概要 現在の日本社会の学校教育はどのように変化してきたのか、1947年以後の変化について、中学・高校の変化を中心に解説し、併せて現代の日本社会の抱える「教育病理」ともいえるさまざまな課題に、社会学的な視点から考察したい。	
	授業計画 第1回：教育社会学とはどのような学問か解説する。 第2回：「教育現象の社会学的捉え方」について考察する。 第3回：日本社会の変化と学校教育(1) 6.3.3.4制度の発足から1960年までを解説し考察する。 第4回：日本社会の変化と学校教育(2) 1960年から1975年まで(高度成長期)の学校教育について解説し考察する。 第5回：日本社会の変化と学校教育(3) 1975年から1990年まで(情報化の進展期)の学校教育について解説し考察する。 第6回：日本社会の変化と学校教育(4) 1990年から2005年まで(自由競争の激化)の学校教育について解説し、考察する。 第7回：日本社会の変化と学校教育(5) 2005年以降の学校教育を考察する。 第8回：「学校病理」の社会学的考察(1) 不登校と学校嫌いを考察する。 第9回：「学校病理」の社会学的考察(2) 不登校と引きこもりを考察する。 第10回：「学校病理」の社会学的考察(3) 学級崩壊を考察する。 第11回：カリキュラムの社会学；見えるカリキュラムと見えないカリキュラムについて解説を論じる。 第12回：カリキュラムの社会学；隠れたカリキュラムとはなにか社会学的視点から考察する。 第13回：教育指導と隠れたカリキュラムについて考察する。 第14回：隠れたカリキュラムと社会化について論じ考察する。 第15回：総括講義 これからの日本社会の変化と学校教育の方向について論じる。	
	テキスト 藤吉圭二著『教育社会学』有斐閣	テキスト 藤吉圭二著『教育社会学』有斐閣
	参考書・参考資料等 藤吉圭二著『教育社会学』有斐閣	参考書・参考資料等 藤吉圭二著『教育社会学』有斐閣
学期 前期	学期 前期	
単位数 2	単位数 2	
担当者 藤吉圭二	担当者 藤吉圭二	
学生に対する評価 受講者分班で報告発表、質疑、感想等と学年末試験の総合評価	学生に対する評価 受講者分班で報告発表、質疑、感想等と学年末試験の総合評価	
その他 ・初回に配布するガイダンスプリントを必ず入手しておくこと。	その他 ・初回に配布するガイダンスプリントを必ず入手しておくこと。	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標:教育課程とはなにかを理解し、中学校及び高校の学習指導要領の意図するものはなにか、またそれはどのように構成されているのかを把握することができたかを到達目標とする。 テーマ:学習指導要領と学校教育課程の間を探る。
教育課程論	授業の概要 教育課程は学校の教育実践の基盤となるものである。本講義を通じて教育課程の意図するものを現行学習指導要領を中心に明らかにし、併せて、その変遷について解説する。さらに、学校教育と学習指導要領の間にある「隠れたカリキュラム」の実践的意義について考察する。
学期	授業計画 1. 教育課程とは何か及び教育課程の目標とするところについて解説する。 2. 教育課程の内容構成について解説する。 3. 学校の教育活動と教育課程の編成について解説する。 4. 教育課程と教科の構成について解説する。 5. 教育課程の評価方法について解説する。 6. 学習指導要領と教育課程の変遷 (1) 発足時から1958年改訂まで 7. 学習指導要領と教育課程の変遷 (2) 1958年改訂から1977年改訂まで 8. 学習指導要領と教育課程の変遷 (3) 1977年改訂から1998年改訂まで 9. 学習指導要領と教育課程の変遷 (4) 1998年改訂から現在まで 10. 新学習指導要領の意図するもの一改訂(案)をめぐって 11. 学習指導要領の法的拘束性について考察する。 12. 教育課程と隠れたカリキュラムについて解説し考察する (1) 13. 教育課程と隠れたカリキュラムについて解説し考察する (2) 14. 中等教育カリキュラムの国際比較 日・米・欧(ドイツ・フランス)の比較 15. 総括講義 教育課程の編成と学校の教育活動の現状
後期	テキスト 平成15年度版 学習指導要領(中学校編)及び(高等学校編) 文部科学省
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 伊藤一雄著『教職への道標』サンライズ出版 2008.10 発行 伊藤一雄他著『教育課程論』晃陽書房 2010.4 発行
伊藤一雄	学生に対する評価 定期試験50%、小試験30%、授業参加20%
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標:宗教教育の意義を学び、宗教教育のあり方について考えを深める。 テーマ:宗教教育の理論と実際
宗教科教育法Ⅰ	授業の概要 学校教育における宗教教育に必要な理論と実際について学習する。宗教教育の意義について学ぶとともに、宗教科教育法を通して戦前と戦後における宗教教育の実態を探り、宗教教育のあり方について考える。そのうえで、実際の宗教教育の進め方について学習する。
学期	授業計画 1. シラバスの説明、講義の進め方等 2. 宗教教育とは (1) 3. 宗教教育とは (2) 4. 宗教教育とは (3) 5. 宗教科教育法について (1) 6. 宗教科教育法について (2) 7. 宗教科教育法について (3) 8. 宗教教育の歴史 (1) 9. 宗教教育の歴史 (2) 10. 宗教教育の歴史 (3) 11. 宗教教育の歴史 (4) 12. 学習指導案の作成 (1) 13. 学習指導案の作成 (2) 14. 学習指導案の作成 (3) 15. 試験
前期	テキスト 斎藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会 その他、プリント配布
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林 小口肇一編『宗教学辞典』東京大学出版社、等
乾	学生に対する評価 試験60%、レポート40%
仁志	その他 宗教科教育法は他の一般教科とは少し性格が異なる。その点を受講者は十分に留意し、主体的に学習してほしい。そのためには、とくに宗教科の教師になるということの意味をよく考えることが必要である。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標:宗教教育科の授業方法や実際について学ぶ。 テーマ:模擬授業を通してみた宗教教育の実際
宗教科教育法Ⅱ	授業の概要 受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、高校生を対象とした宗教教育の授業内容や方法などについて学習する。
学期	授業計画 1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞 2. 山内の歴史探訪と案内 3. 模擬授業テーマ「祖師の生涯」1(釈尊伝) 4. 模擬授業テーマ「祖師の生涯」2(釈尊伝) 5. 模擬授業テーマ「祖師の生涯」3(弘法大師伝) 6. 模擬授業テーマ「祖師の生涯」4(弘法大師伝) 7. 模擬授業テーマ「祖師の教え」1(仏教の教え) 8. 模擬授業テーマ「祖師の教え」2(仏教の教え) 9. 模擬授業テーマ「祖師の教え」3(真言宗の教え) 10. 模擬授業テーマ「祖師の教え」4(真言宗の教え) 11. 模擬授業テーマ「教団の歴史」1(仏教の歴史) 12. 模擬授業テーマ「教団の歴史」2(仏教の歴史) 13. 模擬授業テーマ「教団の歴史」3(真言宗の歴史) 14. 模擬授業テーマ「教団の歴史」4(真言宗の歴史) 15. 模擬授業の反省と総括
後期	テキスト 中村元・田辺和子共著『ブツ物語』(岩波ジュニア新書) 岩波書店 松長有慶著『空海・心の眼をひらく一弘法大師の生涯と密教一』大法輪閣
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 斎藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会 教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林
乾	学生に対する評価 模擬授業(学習指導案と教材研究を含む)60%、レポート40%
仁志	その他 宗教科の教師になるということの意味をよく考え、仏教・密教に関する基礎知識を普段からしっかり養い、創意工夫して、模擬授業に望むこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標:日本国の中等教育において、いかなる宗教教育のあり方が望まれ又求められているのか、私学における義務教育の枠組みの中で自らの答えを見出すこと。 テーマ:(1)教育基本法、関連法令についての学習 (2)現代の科学用語と仏教用語それぞれの意味内容の理解 (3)受講生各自にとっての「私の伝えたいこと」の発表
宗教科教育法Ⅲ	授業の概要 日本国の中等教育において、いかなる宗教教育のあり方が、現代の日本社会において、今、望まれ又求められているのか、私学における義務教育の枠組みの中で共に考えてみたい。
学期	授業計画 1. 導入 2. 関連法令・文科省関連審議会報告から学ぶ 3. 「教育基本法」を学ぶ 4. 宗教教育を担う教育者のあり方と教育指針について考える(「公民」教科書から学ぶ) 5. (同上) 6. 仏教の「慈悲」の教えと、キリスト教の「愛」の教えについて考える 7. 受講生による課題発表 8. (同上) 9. 仏教の観点から見る、生命倫理分野・脳神経倫理分野における脳/心についての諸論点 10. (同上) 11. 仏教の観点から見る、「無縁死」や「孤族」なる造語が生まれた現代社会における諸論点 12. 受講生による課題発表 13. (同上) 14. (同上) 15. 学期末試験
後期	テキスト テキストはない。
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 授業の中で、適宜、紹介するが、『図解 宗教史』(成美堂出版2010年)などを参考書として使用する。
室寺義仁	学生に対する評価 学年末の論述式試験(60%)と、授業という学術的対話の場での議論内容・プレゼンテーション(40%)によって評価する。
	その他 授業に欠席する場合は、予め連絡を入れることを義務付ける。教諭・教員を目指す者にとって、守るべき最低限のマナーの一つと考えるからである。したがって、無断欠席が続いた場合、その時点で単位取得はなくなったものと考えて頂きたい。

科目名 国語科教育法Ⅰ	<p>授業の到達目標及びテーマ 到達目標：国語への関心を高め、表現力を伸張し、日本文化と伝統についての理解を深める。 テーマ：学習指導要領を通して、国語科教育の目的・目標を理解させる。教材研究の方法を各単元ごとに具体的に指導する。学習指導案の作成の意義・手順・などを具体的に指導する。</p> <p>授業の概要 中学校と高等学校の学習指導要領（国語科）を対比しながら、国語科の目標ならびに内容を理解する。 高等学校の国語の教科書を通して、具体的に教材研究のありかたを学ぶ。また、授業のために不可欠な指導案の作成にかかわる諸問題を学ぶ。</p> <p>授業計画 第1回：シラバスの説明とその補足（とくに講義概要と成績評価の部分）。国語科教育の目的・目標（中学校・高等学校） 第2回：中学校の学習指導要領（国語）の「内容」を読み、その意味を正しく理解する。 第3回：高等学校の学習指導要領（国語）の「内容」を読み、その意味を正しく理解する。 第4回：高等学校における「古典」の授業のあり方について、現場の意見も参考にしながら、その方法を具体的に考える。 第5回：学習指導案とは何か。その意義と目的について 第6回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その1） 第7回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その2） 第8回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その3） 第9回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その4） 第10回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その5） 第11回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その6） 第12回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その7） 第13回：上記の学習を通して学んだ教材研究と学習指導案についての意見交換（総括） 第14回：教員による模擬授業（50分）とその授業に対する受講生の評価（教材研究と学習指導案を中心に） 第15回：総括講義</p> <p>テキスト 『中学校指導要領』『高等学校指導要領』（文部科学省一平成19年3月一部改正一） 『国語総合』（東京書籍）</p> <p>参考書・参考資料等 『国語科教育研究』（学芸図書）</p> <p>学生に対する評価 出席40%、授業の取り組み30%、教材研究の報告書30%</p> <p>その他</p>
	学期
	前期
	単位数
	2
担当者	
下西忠	

科目名 国語科教育法Ⅱ	<p>授業の到達目標及びテーマ 到達目標：実際の模擬授業を通して、多くの実践体験をつむとともに、教師に必要なさまざまな資質を養う。また各単元における指導案の書き方も研究することとする。 テーマ：</p> <p>授業の概要 毎時間・名による模擬授業（50分）とそれに対する他の受講生の意見・批評。また教員の意見・指導（40分）。忌憚のない積極的な意見を出し合うことにより、授業の内容・教材研究・指導案の書き方などを学ぶことになる。また併設校で実際に教育実習をおこなっている学生の授業を参観することにより、高校の現場を知ること学びたい。</p> <p>授業計画 第1回：ガイダンス（模擬授業の意義、指導案の意義の確認） 第2回：模擬授業（1）現代文（評論）「希望としてのクレオール」 第3回：模擬授業（2）古文（説話）「絵仏師良秀」 第4回：模擬授業（3）国語表現「君たちに伝えたいこと」 第5回：模擬授業（4）古典文法（動詞の活用） 第6回：模擬授業（5）現代文（小説）「羅生門」 第7回：高校現場を体感する（その1）現代文 第8回：高校現場を体感する（その2）古文 第9回：第六回と第七回の授業参観の反省会 第10回：模擬授業（6）漢文（故事）「矛盾」 第11回：模擬授業（7）古文（日記）「土佐日記」 第12回：模擬授業（8）国語表現「報告文」「手紙」を書いてみる 第13回：模擬授業（9）現代文（詩歌） 現代詩「汚れちまつた悲しみに」 第14回：模擬授業（10）古文（和歌）『新古今集』-三夕の歌の理解- 第15回：総括 教材研究のありかたとあるべき指導案の確認</p> <p>テキスト 『国語総合』（東京書籍）現代文編・古典編</p> <p>参考書・参考資料等 受講者の模擬授業に際し、適宜資料を配付</p> <p>学生に対する評価 出席40%、模擬授業と指導案60%</p> <p>その他</p>
	学期
	後期
	単位数
	2
担当者	
下西忠	

科目名 国語科教育法Ⅲ	<p>授業の到達目標及びテーマ 国語科教育法Ⅰでは学習指導要領の解説、Ⅱでは教案作成及び模擬授業に焦点を当て、講義したが、本講義では古文指導に焦点を当て、教材研究の進め方、古文授業の展開法を理解させることを目標とする。教材研究の深さが指導のポイントであることを古文指導を通じて実感させ、どれだけ教材研究が深められたか、作成した学習指導案と小模擬授業を通じて判断する。</p> <p>授業の概要 古文を苦手とする中学生、高校生に対してどのように興味ある授業展開ができるか、担当者の現場経験を入れて解説する。古文の力を高める教材研究、国文法の方を高める教材研究の方法、古文を理解するため、日本の伝統文化行事、和歌・俳句の修辞等の解説を行う。</p> <p>授業計画 第1回：ガイダンス（授業内容の趣旨説明）と古文学習の概説 第2回：古文指導の基礎1（古文と現代の私たちの生活について解説する） 第3回：古文指導の基礎2（古文指導と現代文指導との違いについて解説する） 第4回：古文の教材研究法1（教材研究ノートの作成1） 第5回：古文の教材研究法2（教材研究ノートの作成2） 第6回：古文1（用言 活用の種類と活用形）の指導法1 第7回：古文2（助動詞の文法的意味）の指導法2 第8回：古文3（助動詞の文法的意味）の指導法3 第9回：古文4（助詞の文法的意味）の指導法4 第10回：古文5 古文指導の教案作成（平家物語を教材化する） 第11回：古文6 古文指導の小模擬授業（4名程度） 第12回：古文7（和歌及び俳句の修辞と区切れ、本歌取り・季語）をどう指導するか。 第13回：古文8 日本文化と季節行事について解説する。 第14回：古文9 担当者によるモデル授業と小試験 第15回：総括授業</p> <p>テキスト なし、教員が必要部分をコピー配布（中学及び高校の教科書にある古文）</p> <p>参考書・参考資料等 講義中に指示する。</p> <p>学生に対する評価 出席20%、教材研究ノートの作成30%、教案作成20%、小模擬授業または小試験30%。 小模擬授業の実践者は小テストは受験しなくても可。</p> <p>その他</p>
	学期
	前期
	単位数
	2
担当者	
下西忠	

科目名 教育方法論	<p>授業の到達目標及びテーマ 到達目標：近代から現代に至る教育方法に関する思想や技法を知り、今日的な教育方法の問題点や課題を考察することができる。 テーマ：教育方法の思想と具体的教授法の研究</p> <p>授業の概要 17世紀から20世紀に至る主要な教育思想の史的展開とその教授理論を概観し、現代の授業論に関する基礎と実践モデルを考察する。</p> <p>授業計画 1. コメニウスの教育思想—近代教育の創始者— 2. ベスタロッチの教育思想（1）—人類教育の父— 3. ベスタロッチの教育思想（2）—基礎陶冶と人間形成論— 4. ヘルバルトの教育思想（1）—科学的教育学の創始者— 5. ヘルバルトの教育思想（2）—教授段階説の構造— 6. 個別化教授法の理論と展開（1）—デューイの教育論— 7. 個別化教授法の理論と展開（2）—個別化教授理論— 8. 個別化教授法の理論と展開（3）—個別化教授プラン— 9. 生活綴り方的教育方法の理論と実践 10. 問題解決学習と系統学習の理論 11. 現代授業研究の現状—視覚聴覚教育も含む— 12. 今日の授業改革の論点 13. 完全習得学習の理論と実践 14. 我が国の学力論の展開 15. 授業のまとめ—総括テスト—</p> <p>テキスト 特になし。</p> <p>参考書・参考資料等 適宜紹介する。</p> <p>学生に対する評価 筆記試験、授業態度などにより総合評価する。受験資格は2/3以上出席とする。</p> <p>その他 授業中にディスカッションやレポート作成を求められることがあるので、積極的に応じること。</p>
	学期
	前期
	単位数
	2
担当者	
山本芳孝	

科目名 情報技術論	授業の到達目標及びテーマ 授業の目標: 情報及び情報技術を活用できる技術と技能を活かして、学校教育において情報及び情報機器が果たしている役割を認識し、あわせて中学校及び高校の学習指導要領が意図する情報教育を理解することを到達目標とする。 テーマ: 情報機器を教育に活かす	
	授業の概要 情報及び情報技術が学校教育で活かすための教材作成を行う。本講義を通じて情報及び情報機器の正しい取り扱いに習熟し、生徒の指導ができるようにする。作成した教材を用いて各自に模擬授業を行わせ、情報及び情報機器の有効な利用法を学ぶ。	
	授業計画 【開講時期】平成23年8月9日(火)～8月12日(金)	
	1. 情報を活用するための工夫と情報機器の取り扱い 2. 情報の収集・発信と情報機器の活用 3. 情報の総合的な処理とコンピューターの活用 4. 情報機器の発達と生活の変化 5. コンピューターの仕組みと働き 6. モデル化とシミュレーション 7. 情報化社会と情報技術の進歩 8. 情報機器を利用した強化授業の指導案作成Ⅰ (取得免許の教科) 9. 情報機器を利用した強化授業の指導案作成Ⅱ (取得免許の教科) 10. 情報技術を使用した模擬授業の実施Ⅰ 11. 情報技術を使用した模擬授業の実施Ⅱ 12. 情報技術を使用した模擬授業の実施Ⅲ 13. 情報機器を活用した授業評価 14. 情報の収集・発信と個人の責任 15. 総括講義 情報化社会の進展と個人の責任	
	学期	
	集中	
	単位数	
	2	
	担当者	
	本多千明	

科目名 道徳教育の研究	授業の到達目標及びテーマ 到達目標: ・学習佐藤隆彦同要領における道徳の目標、内容を学ぶ。 ・道徳教育の理念や歴史を学ぶ ・「道徳の時間」の実践的な指導力を目指す。(学習指導案の作成と模擬授業) テーマ: 「道徳教育の理念と実践力の育成」	
	授業の概要 本講義では、人間存在における道徳の重要性、そして教育の場において道徳はいかに教えられ得るかという問題を扱い、道徳教育の意義と方法の理解を目指す。講義は①西洋の道徳教育思想、②日本における道徳教育の歴史、③道徳教育の実践の3点を中心に行う。まず西洋の道徳教育思想では、古代(ソクラテスからアリストテレス)、近代(カントからヘーゲル)を中心に、道徳性育成がいかに思惟されたかを見ていく。次に日本における道徳教育史では、主に明治以降の道徳教育(修身)と戦後の「道徳の時間」がいかに設置されたかを見ていく。最後に道徳教育の実践では、学習指導要領で道徳の時間の目標と内容項目がどのように位置づけられているのかを講義する。そして実際に中学校で使用されている副教材を使用して、学習指導案の作成と模擬授業を行い道徳の指導力向上を目指す。	
	授業計画 【開講時間】平成23年8月22日(月)～8月25日(木)	
	1. 人間存在と道徳(学習指導要領における道徳の目標と内容) 2. Ⅱ 西洋における道徳教育の思想 ① 西洋古代の道徳教育の思想(ソクラテス、アリストテレス) ② Ⅱ 西洋における道徳教育の思想 ② 西洋近代の道徳教育の思想(カント、ヘーゲル) 4. Ⅲ 日本における道徳教育の歴史 ① 明治以前の道徳教育 5. Ⅲ 日本における道徳教育の歴史 ② 明治期における道徳教育 6. Ⅲ 日本における道徳教育の歴史 ③ 大正期における道徳教育 7. Ⅲ 日本における道徳教育の歴史 ④ 昭和期における道徳教育 8. Ⅳ 道徳教育の実践 学習指導要領における道徳教育の位置づけ 9. 学習指導案の作成の指導① (中学校1年の副教材・資料から) 10. 学習指導案の作成の指導② (中学校2年の副教材・資料から) 11. 学習指導案の作成の指導③ (中学校3年の副教材・資料から) 12. 学習指導案の作成と模擬授業① (中学校1年の副教材・資料から) 13. 学習指導案の作成と模擬授業② (中学校2年の副教材・資料から) 14. 学習指導案の作成と模擬授業③ (中学校3年の副教材・資料から) 15. まとめ	
	学期	
	集中	
	単位数	
	2	
	担当者	
	田中潤一	

科目名 特別教育活動	授業の到達目標及びテーマ 到達目標: 特別活動の必要性や内容、方法、歴史などに関して理解を深め、教員になる上での資質や実践力を培う。 テーマ: 特別活動の本質と実践の探究	
	授業の概要 特別活動の変遷、特別活動の特質、特別活動の内容及び方法等に関して考察する。	
	授業計画 1. 特別活動とは(授業のガイダンス) 2. 学習指導要領における特別活動の変遷(1) (昭和22年版から昭和44年版) 3. 学習指導要領における特別活動の変遷(2) (昭和52年版から平成20年版) 4. 特別活動の今日的意義と必要性 5. 特別活動の改善の特徴 6. 特別活動と他領域との関係及び取扱い 7. 特別活動の年間計画の作成(資料収集とグループ協議) 8. 特別活動の年間計画の作成(年間計画の作業と完成) 9. 学級活動の特質と内容 10. 学級活動の指導案作成 11. 生徒会活動及び学校行事の特質と内容 12. 個と集団に関わる一般原理 13. 学級集団作りの過程と構造 14. リーダーシップと集団形成 15. 授業のまとめ—総括テスト—	
	学期	
	前期	
	単位数	
	2	
	担当者	
	山本芳孝	

科目名 生徒指導・進路指導	授業の到達目標及びテーマ 到達目標: 生徒指導と進路指導の基礎理論を理解した上で、生徒指導、進路指導の多くの事例をあげ、その課題にどれだけ接近できたかにより到達点を測る。 テーマ: キャリア教育を活かした生徒指導	
	授業の概要 自分の将来をどう展望するか、進路指導の課題に真剣に取りくめば、それは生徒指導に生きてくる。本教授では、中・高等学校の生徒指導・進路指導を進める上での基礎的事項を解説した後、担当の生徒指導主事、進路指導主事の現場経験を活用し、実践例を多く入れ課題解決型の講義にしたい。	
	授業計画 1. 教育指導と教員の役割を考察する。 2. 生徒の現状と生徒理解の方法を把握する。 3. 社会変化と子どもの生活の変化を解説する。 4. 社会変化と中・高校生の問題行動を知る。 5. 生徒の生育歴と問題行動の関係を把握する。小試験を実施する。 6. 生徒指導の実際(反社会的問題行動を中心に)を解説する。 7. 生徒指導の実際(非社会的問題行動を中心に)を解説する。 8. 進路指導の基礎(職業指導からキャリア教育まで)を解説する。 9. 進路選択の基礎理論を解説する。 10. 進路選択の基礎理論を解説する。(職業的発達理論とその系譜) 11. 進路選択の実務を解説する。(1) 12. 進路選択の実務を解説する。(2) 13. キャリア教育とは、どのような教育指導なのか解説し実践例を学ぶ。 14. キャリア教育と生徒指導の関係を考察する。 15. 総括講義: キャリア教育の国際比較	
	学期	
	前期	
	単位数	
	2	
	担当者	
	伊藤一雄	

科目名	教育相談
	教育相談
	後期
	単位数
	2
担当者	戸來知子
授業の到達目標及びテーマ	到達目標:学校教育相談の実情を理解する。教育相談の基礎理論となる、教育や心理学の基礎理論の理解。 児童・生徒の抱える様々な問題や悩みに対応できる知識と解決方法を習得する。また、発達障害についても理解を深める。 テーマ:児童・生徒が学校や家庭の生活で抱える様々な問題とその対処方法を理解する。生徒の発達段階の理解や、自尊感情の育成についての理論を理解する。学習障害や、ADHDなどの発達障害についても学習する。
授業の概要	基本的には講義形式で進めるが、学生と双方向の授業であるように、常に意見を求める。小レポート等を書くことも求める。 考えるヒントとなるビデオ教材も鑑賞する。
授業計画	1. オリエンテーション。授業計画、授業の概要の説明。教育相談の定義。 2. 教育相談の概念、枠組み、範囲。学校教育相談の具体例。 3. 人間の発達段階と児童期や青年期の特性について。 4. 自尊感情の育成方法。 5. 児童期の子どもたちの様々な悩みについて。 6. 学校内外でのいじめや不登校の問題について。 7. 子どもを取りまく家庭の問題について。(DVや虐待の問題も含む) 8. 様々な不適応問題の原因と解決策。 9. 発達障害について。(学習障害、ADHD、アスペルガー症候群等) 10. 発達障害を持つ子どもと家族への援助。(大人のADHDも含める。) 11. カウンセリングの基本的なテクニックと理論の紹介 12. 国際化に伴う教育相談。(外国人未就学児童の問題など) 13. 社会問題化するドラッグや非行、引きこもり等の問題について。 14. 教育者としての教師の自己管理について(教師の燃え尽き症候群、教師への援助) 15. まとめ
テキスト	『教職基礎論』サンライズ出版
参考書・参考資料等	『クライアント中心療法』佐治守夫・飯長喜一郎編、講談社新書。
学生に対する評価	平常点を重視する。小レポートを1回、宿題として出す(評価に入れる)。
その他	毎回、出席をとる。積極的な取り組み、特に復習に力を入れてほしい。

科目名	総合演習
	総合演習
	後期
	単位数
	2
担当者	伊藤一雄
授業の到達目標及びテーマ	到達目標:各自の選択した課題の発表を通じて、「自己教育力」を育成し、研究・発表能力を伸ばすことを目標とする。レジメ作成から発表まで円滑にこなせるかを到達目標とする。 テーマ:「自己教育力」の伸張
授業の概要	教員は、専門の教科のみではなく、幅広い教養を基礎とした学力が求められる。この演習を通じて、各自は自分の選んだテーマについて、研究・調査し、クラスで発表し、「自己教育力」を磨くことを目標とする。
授業計画	1. 本演習の目指す目標・内容について解説する。 2. 「社会問題」の社会学的研究方法について解説する。 3. 社会科学の文献探索について社会学を中心に解説する。 4. 社会科学の調査方法について社会学を中心に解説する。 5. 各自の課題と報告テーマの決定。 6. 個別指導と課題設定(1) 7. 個別指導と課題設定(2) 8. レジメの作成と発表方法について解説する。 9~13. 一人30分程度で、各自の研究課題を発表し、質疑に答える。 14~15. 総括評価と講義
テキスト	なし、必要に応じプリント教材による。
参考書・参考資料等	小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文』講談社現代新書
学生に対する評価	研究発表の内容40%:発表時、連絡なしの欠席は不認定とする。 事前指導20%:発表前にレジメを持参して指導を受けること。 討論参加20%:討論に積極的に参加しているか。 授業参加20%
その他	

科目名	教育実習の研究
	教育実習の研究
	前期
	単位数
	2
担当者	山脇雅夫
授業の到達目標及びテーマ	教育実習の意義は、第一に、受講生による教師論・教育論を主体的に再構築することである。これまで大学で学んだ教養的教育、教科専門教育及び教職専門教育の知識を学校現場で実践・検証し、自らの教師論・教育論を再構築することを目標とする。第二に、教員になるための職能を感得する機会を得ることである。現代の学校教育の状況、今日の教員や児童・生徒の考え方や実態を捉える中で、教員となるための職能を自ら高めていくことを目標とする。
授業の概要	教育実習の事前・事後指導を通して、教員になるための動機づけ・意義づけを強め、教育実習に必要な基礎知識・技能を習得させる。
授業計画	1. 事前指導(5回) 第1回:教育実習の意義と目標 第2回:教育実習の基礎知識 第3回:学校現場の1日と実習日誌の書き方 第4回:授業の進め方、指導案の書き方 第5回:教育実習の心得の確認と教育実習レポートの書き方 2. 教育実習(中学校または高等学校において90時間の委託実習を行う) 3. 事後指導(2回) 第6回:教育実習の報告 教職の意義の相互確認 第7回:教育実習の総括 教員採用試験について
テキスト	各教科書
参考書・参考資料等	教育実習を考える会編『教育実習の常識』春丘書林 教育実習日誌・教科指導案
学生に対する評価	実習校からの教育実習評価表、教育実習レポート・教育実習日誌・指導案、授業態度・授業参加を加味する
その他	今年度の教育実習Ⅰに行く学生は、必ず木曜日1講時(前期)の「教育実習の研究」を受講すること。

科目名	聖教の伝授と実習2(別)
	聖教の伝授と実習2(別)
	前期
	単位数
	2+2
担当者	佐藤隆彦
授業の到達目標及びテーマ	到達目標:中院流における諸尊法について詳しく知ることを目標とする。 テーマ:中院流三十三尊の研究
授業の概要	中院流三十三尊、中院流三十三尊開書の講義を通して中院流三十三尊法の特徴を解明したい。
授業計画	【前期】 1. オリエンテーション 2. 中院流について 3. 各流派の諸尊法 4. 『中院流三十三尊開書』講義 5. 『中院流三十三尊開書』講義 6. 『中院流三十三尊開書』講義 7. 『中院流三十三尊開書』講義 8. 『中院流三十三尊開書』講義 9. 『中院流三十三尊開書』講義 10. 『中院流三十三尊開書』講義 11. 『中院流三十三尊開書』講義 12. 『中院流三十三尊開書』講義 13. 『中院流三十三尊開書』講義 14. 『中院流三十三尊開書』講義 15. まとめ 【後期】 1. オリエンテーション 2. 前期の復習 3. 『中院流三十三尊開書』講義 4. 『中院流三十三尊開書』講義 5. 『中院流三十三尊開書』講義 6. 『中院流三十三尊開書』講義 7. 『中院流三十三尊開書』講義 8. 『中院流三十三尊開書』講義 9. 『中院流三十三尊開書』講義 10. 『中院流三十三尊開書』講義 11. 『中院流三十三尊開書』講義 12. 『中院流三十三尊開書』講義 13. 『中院流三十三尊開書』講義 14. 『中院流三十三尊開書』講義 15. まとめ
テキスト	『中院流三十三尊』(『中院流聖教』所収) 『中院流三十三尊開書』(八業学会刊)
参考書・参考資料等	上田靈城『真言密教事相概説』四度部
学生に対する評価	期末レポート70パーセント、出席20パーセント、演習発表10パーセント 担当箇所レポートを作成すること。
その他	灌頂修了者のみを受講を許可する。加行後期修了者は担当者と相談のこと。

科目名 【永田良一寄附講座】 密教学特殊講義〔密教と現代社会〕 特別講座	授業の到達目標及びテーマ <p>実際の社会現場において、密教の教えがどのように取り入れられているか、具体的事例を通して理解する。</p> 授業の概要 <p>密教の教えを中核として、企業あるいは医療機関の経営を通じて、社会にどのように関わり、貢献しているかを講義します。</p> 授業計画 <p>【日 程】 平成 23 年 10 月 24 日（木） 4 講時</p> <p>【講義内容】 二而不二、我執、三密、大欲など、密教の教えを中心に、理念経営の実践や“働く”ことの意義といった視点から講義する。</p>
学期	
後期	テキスト 特になし。
単位数	参考書・参考資料等 特になし。
担当者	学生に対する評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 後期 木曜日 4 講時 「【永田良一寄附講座】密教学特殊講義〔密教と現代社会〕」（担当 山脇雅夫准教授）の中で開講されます。 ・ 聴講は自由です。 ・ 1 回生、2 回生も受講できます。
永 田 良 一	その他